

2018 年度課題研究会活動成果報告書

課題研究会名：歯科医療情報における交換・連携に関する研究会

設置期間：2015 年 6 月から 2019 年 3 月

代表幹事の氏名・所属：玉川裕夫・前大阪大学歯学部附属病院

幹事の氏名・所属：森本 徳明・矯正歯科 森本
佐々木 好幸・東京医科歯科大学
齊藤 孝親・日本大学松戸歯学部
鈴木 一郎・新潟大学医歯学総合病院
永松 浩・九州歯科大学

活動成果の概要：

課題研究会では、昨年度と同様に歯科領域の標準化を課題とした活動を継続しており、厚生労働省で検討中の”口腔診査情報標準コード”策定に貢献している。

その一環として、2018 年 11 月 23 日、第 38 回医療情報学連合大会（福岡国際会議場）では、共同企画 3 ”口腔診査情報標準コード仕様を使ったデータ利活用の課題”を、日本歯科医療管理学会と共同で開催した。

共同企画では、”口腔診査情報標準コード仕様”をより広範囲で利用する場合を想定して行われた今年度実証事業を元に、地域医療連携の場での利活用に関する内容を扱った。講演をお願いしたのは、災害時対応に軸足をおいた地域医療ネットワークである和歌山県の青洲リンクと大分県のうすき石仏ねっとならびに両県の歯科医師会関係者である。

昨年度は、新潟県と静岡県をモデル地区に選定し、歯科のレセプトベンダがこのコード仕様に準拠したデータを CSV（Comma Separated Values）形式で出力、それらをさらに HL7 形式に変換する実証事業を行った。今年度は、データ蓄積の対象をさらに広げ、節目健診あるいは高齢者健診を受けた人々の口腔診査情報を CSV で出力、共通形式で蓄積する事業を展開した。その結果、両健診のデータを例年 7000 人程度、標準 CSV 形式で蓄積できることが示された。実際には、実稼働している地域医療ネットワークのデモ環境までの検証とした。また、学校健診や乳幼児健診については、ステークホルダが多いことや同意の取り方に議論が残っていることから、

課題として残った。

また、同連合大会の公募企画シンポジウム3として、“歯科診療現場での医療ICTの貢献と普及と課題”を当研究会でオーガナイズした。

ここでは、“医療連携に必要な医療情報と医療連携レベル・患者個人レベルでのICT格差”について日本歯周病学会の立場から、“在宅歯科医療現場における医療介護連携ICTの実際と諸問題”について歯科医療管理学会の立場から、そして“国の医療等分野におけるICT化政策に関する日本歯科医師会の取組みについて”を日本歯科医師会の立場から、それぞれ現状と今後の課題を講演いただき、参加者と議論を重ねることができた。

さらに、2019年1月31日の平成30年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議（熊本）では、“歯科診療情報の標準化—いざというときの歯科情報—”と題した歯科セッション（セッションD-2）を開催した。

ここでは、前述の厚生労働省の班研究において進めている標準化に焦点をあて、歯科レセプトコンピュータから得られる情報を活用して治療経過を追うことや、災害時身元確認の可能性につなげる歯科診療情報の標準化作業について紹介した。がん診療や周術期医療における医科歯科連携が治療効果を向上させていることも含め、歯科診療情報の標準化が地域での医科歯科連携に役立つとともに、地域等での万が一の災害時の情報連携にも役立つと期待されることについて、現状報告と地域での連携、大規模病院内での応用について議論を行った。

これらの事業を通じて得られた成果を反映させた口腔診査情報標準コード仕様を、平成30年11月29日版として、日本歯科医師会サイトで公開した。

その後、同仕様を厚生労働省標準規格にすべく、HELICS協議会の審査申請を行った。2019年2月21日に行われた審査でのコメントをさらに仕様に反映させ、本年度の最終版として日本歯科医師会のサイトで公開準備中である。

資料1.（第38回医療情報学連合大会共同企画詳細抄録）

資料2.（口腔診査情報標準コード仕様 Ver.1.00、日本歯科医師会、平成30年11月29日版）

<https://www.jda.or.jp/jda/business/pdf/Oral-examination-Information-Standard-Code.pdf>

資料3.（第38回医療情報学連合大会ワークショップ詳細抄録）

資料4.（平成29年度 大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録）

活動成果の発表（文献のリストを記載する形式で記載）：

[雑誌論文] 計（9）件

- ①口腔診査情報標準コード仕様を使ったデータ利活用の課題、玉川裕夫他、医療情報学 38(Suppl.) ; 104-107, 2018.
- ②医療連携に必要な医療情報と医療連携レベル・患者個人レベルでの ICT 格差、高柴正悟、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科歯周病態学分野、医療情報学 38(Suppl.) ; 158-159, 2018.
- ③在宅歯科医療現場における医療介護連携 ICT の実際と諸問題、外山敦史、外山歯科医院、医療情報学 38(Suppl.) ; 160-161, 2018.
- ④国の医療等分野における ICT 化政策に関する日本歯科医師会の取組みについて、杉山茂夫、日本歯科医師会常務理事、医療情報学 38(Suppl.) ; 162-163, 2018.
- ⑤地域包括ケア時代の多職種連携に必要な歯科情報とはー地域医療ネットワークを運用してきた医師の視点からー、舩友一洋、社会福祉法人聖母会聖母病院、医療情報学 37(Suppl.) ; 113-114, 2017.
- ⑥地域包括ケア時代の多職種連携に必要な歯科情報とはー歯科医療管理学の視点からー、白土清司、日本歯科医療管理学会会長、医療情報学 37(Suppl.) ; 115-116, 2017.
- ⑦二つの ICT 医療連携システム「h-Anshin むこねっと (はんしんむこねっと)」と口腔がん検診「NAVI システム」に参加して見えてきたこと、重岡 潔他、尼崎市歯科医師会、医療情報学 37(Suppl.) ; 247-250, 2017.
- ⑧日本歯科医師会の個人情報保護に関する考え方、神田 貢、日本歯科医師会歯科医療 IT 化検討委員会委員長、医療情報学 37(Suppl.) ; 251-252, 2017.
- ⑨歯科医療機関における医療情報連携について、杉山茂夫、日本歯科医師会常務理事、医療情報学 37(Suppl.) ; 253-254, 2017.

[学会発表] 計 (3) 件

- ①北海道大学病院における医科歯科、他職種連携等に関する取り組み、伊藤 豊、平成 29 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会、2018、旭川.
- ②院内の診療科間から院外の医療機関間での多職種連携へー医療ネットワーク岡山晴れやかネットでの連携の理想と課題ー、高柴正悟他、平成 29 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会、2018、旭川.
- ③Join を利用した病院歯科間連携、小神順也他、平成 29 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会、2018、旭川.

[その他] 計 (2) 件

- ①平成 29 年度厚生労働省委託事業 歯科情報の利活用および標準化普及事業報告書、公益社団法人日本歯科医師会、平成 30 年 3 月発行.
- ②口腔診査情報標準コード仕様 Ver.1.0、日本歯科医師会、平成 29 年 11 月 17 日版.